



かわはた



川俣地域ケアセンター公認
マスコットキャラクター
「なっちゃん」

【発行日】 平成30年6月1日

【発行】 済生会川俣病院 Saiseikai Kawamata Hospital

〒960-1406 福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字川端2-4



「胃がん撲滅川俣プロジェクト！」中間報告

内科部長 数田 良宏

平成27年度から始まった「胃がん撲滅川俣プロジェクト！」も3年目となり、今年度を含め3年間の結果が出てきました。

平成27年度には40代、平成28年度には主に50代、平成29年度には主に60代の町民を対象とし胃がんリスク検診を行いました。つまり予定の3/4の胃がんリスク検診が終了したことになります。

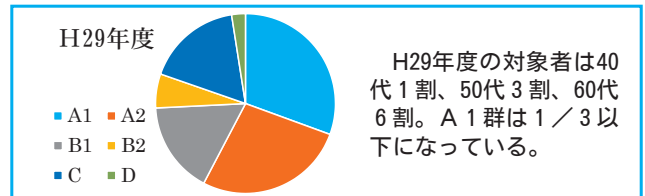
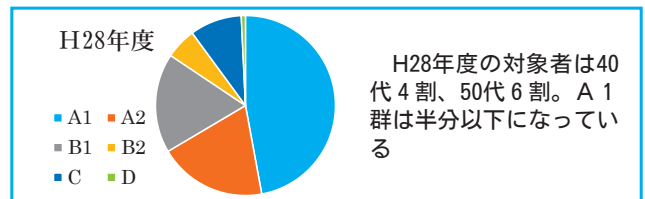
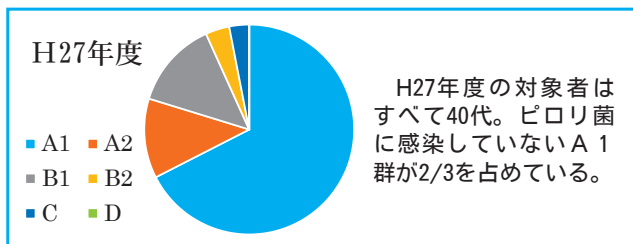
はじめに、3年間の受診率などを表に示します。

	対象者数	受診者数	受診率
H27年度	1557	163	10.5%
H28年度	3211	397	12.4%
H29年度	3461	605	17.5%

受診率は、年々上昇していますが、まだ対象者の5～6人に1人程度です。H30年度も、対象者（主に70代）には6月に「胃がんリスク検診」受診表を郵送します。受診票に必要事項を記入し、川俣町内の医療機関または川俣町保健センターで胃がんリスク検診（一次検診）を受診してください。

次に、健診の結果を図にして示します。

以下の図では、大まかに、ピロリ菌が居なくて、胃炎の無いA群、ピロリ菌は居るが胃炎が無い軽度なB群、ピロリ菌も居るが胃炎も進行しているC群、ピロリ菌は居ないが胃炎は進行しているD群（胃炎が進み過ぎて、ピロリ菌が住めなくなっている）に分けられます。A群の中で、ピロリ菌の存在が否定できない方（境界型）はA2群として、更に分けています。



川俣町では国内他地域と同様に、年齢が上がるにつれピロリ菌に感染している方が増えていくのが分かります。しかも、全国統計に比べ、ピロリ菌の感染者は多くなっています。これが、川俣町に於いて胃がんで亡くなる方が多い原因と思われます。

しかし、ピロリ菌は除菌することにより、胃炎の進行を止め、胃がんになるのを未然に防止することができます。その結果、「胃がんで死なない町」をつくるのが可能になります。

一次検診で、二次検診要（A1以外の方）と判定された方は胃カメラを施行します（A2及びDの方はそれに加えピロリ菌の存在検査も行います）。しかし、二次検診受診率は、H27年度47%、H28年度62%、H29年度54%（1月末日迄）とまだまだ低く、せっかくのピロリ菌をやっつけるチャンスに逃している方が多いのが実情です。

通知で二次検診要とされた方は、まずは当院または鈴木内科医院を受診して下さい。昔よりカメラは細くなっていますし、さらに細かいカメラを鼻から入れる経鼻内視鏡も可能です。

また、二次健診受診年度が過ぎてしまった方も、あきらめないで下さい。健康保険で胃カメラとピロリ菌の再検査ができますので、当院または鈴木内科医院を受診して下さい。



地域研修を終えて ー大阪府済生会中津病院 研修医の先生方よりー

平成29年度、地域研修を学ぶために中津病院より5名の研修医の先生方が来院されました。3週間の研修を終了しての感想をご紹介します。

今回7月に川俣病院で3週間研修をさせていただきました。

普段は大阪の済生会中津病院という急性期病院に勤務しています。中津病院では様々な場所から紹介で初めてやってくる患者さんが多いですが、川俣病院では川俣に住んでおられる患者さんが大半で、先生方の幅広い知識により患者さんからの先生方への信頼も厚く、これぞ地域に根差した医療なのだなと実感しました。

訪問診療や訪問看護、訪問リハビリの同行や、特別養護老人ホームや介護老人保健施設なども見学させていただきましたが、病院から退院することが医療のゴールなのではなく、退院後も様々な形で様々な職種の方々が患者さんと関わっているということ、そのためにもスタッフ同士連携を取ることの重要性を再認識しました。また、退院後の患者さんがどのように過ごさ

7月 南 平 佳奈子



れているか、退院後はどのような点が問題になるのかということも念頭に置いて普段の診療にあたらなければいけないことも改めて感じました。

医療のことだけではなく川俣病院のスタッフの方々みなさん本当に親切で、3週間楽しく過ごすことができました。

院内では困っているとすぐに声をかけて頂き、会津に観光に連れて行ってくださったりと本当に過ごしやすかったです。

福島のおいしい食べ物、お酒をいただきながら、楽しい時間を過ごすことができました。福島県には初めて来ましたが、福島のこと大好きになりました！本当にありがとうございました！！



9月 西 浦 綾 乃

3週間にわたり済生会川俣病院において地域実習をさせていただきました。

今回の実習でまず不安であったことは、訪れたことのない地域の新しい病院で勤務するということでした。しかしながら、熱心な指導医の先生と、看護師の方々をはじめとする温かい医療従事者の方達にも恵まれ少しずつ新しい環境に慣れることができ、のびのびと実習することができました。

また、実習中は訪問診療や訪問介護、介護福祉施設への往診にも同行させていただき、これまであまり目にする事のなかった患者さんが退院した後の生活にも触れることができました。私が想像していたよりもはるかにたくさんのごこと、例えば血液検査や点滴、胃瘻やストマ管理などが在宅や病院外の施設で行うこと

ができることが分かり、今後主治医として患者様の退院にかかわった際により適切な指導を行うことができるようになるのではないかと思います。ゆっくりとした時の中で、入院患者様はもちろん訪問診療や院外施設の患者さんやそのご家族と接する機会を頂き、様々な形の医療を経験できたこと、その方々からご病気や食事、介護、リハビリなどのお話を聞かせていただけたこと、また東日本大震災の被災経験などをお話頂けたことは、これからの医師人生のなかで宝物のような経験ができたと思っております。これらの経験を活かし、よりよい医療を提供できるよう今後も精進していきたいと思っております。こうした実習の機会を与えていただきました済生会中津病院、済生会川俣病院、また川俣町の方々には大きな感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難う御座いました。

10月 上 野 憲 子



私は、当初、済生会日田病院での地域研修の予定でしたが、継続できず、今回、川俣病院にてお世話になることになりました。短い期間でしたが、地域の病院の実態や、福島県ならではの特性、人々の温かさを感じた濃密な2週間だったと思います。

中津病院は大規模な急性期病院、日田病院は中規模な急性期、慢性期病院の間であったため、地域の小規模な慢性期病院での研修は初めてでした。病院だけで完結するのではなく、

診療所や訪問診療、特養などの施設と連携して医療を行っている場面を見て、限られた医療資源で診療を行うことの難しさ、現代の高齢化社会、過疎地の問題点について改めて考える機会を得ました。すぐに検査できない環境であるからこそ、患者さんの訴えにもっと耳を傾け、日常会話等から1人1人の状況を把握していく必要があると思います。今回、コスキン祭の健康相談で、実際に住民の方とお話して、このような積み重ねが重要であることを実感し、非常に勉強になりました。

山木屋地区では、避難が解除された今でも、戻ってくる方が少ないといった事実や、内部被爆検査の施設があったりと、福島原発問題はまだまだ解決していないのだと身を持って体験しました。滞在中に一度地

震があり、3.11の余震だという報道も衝撃的でした。福島県は歴史的観光名所やおいしい農産物が多く、どんどん観光客が増え、活気づいてほしいと思ったため、関西に帰り、周りの人たちにPRしていきたいと思えます。

また、病院の皆様や、見学に行かせて頂いた施設の方々が優しく接して下さり、東北の方の柔らかい性格に心癒されました。会津観光や温泉、コスキン祭など、思い出もたくさん出来、大変楽しかったです。最後になりましたが、今回の経緯は異例であったにも関わらず、温かく受け入れて下さり、本当にありがとうございました。この貴重な経験を活かして医師として成長出来るよう、これからも精進したいと思います。



10月 小林 瞳

川俣病院での三週間の研修では、中津病院ではできない貴重な経験をすることができました。急性期中心の中規模病院である中津

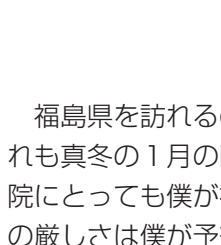
病院に対して、90床という小規模であり慢性期を中心とした川俣病院では検査や治療方針、入院期間、カルテ、患者層、周囲の環境など異なる点が多かったです。そのため最初は戸惑った部分もありましたが、みなさんが優しくサポートしてくださったおかげで充実した研修を送ることができました。

また春日診療所、なでしこ川俣、光風園、山木屋診療所など近くの施設を見学させていただく機会もありました。入居者が楽しく、また我が家で生活しているように工夫がされていて興味深かったです。施設入居者の入院も多く、地域の高齢者社会を支えるために施設と病院との連携がいかに大切かということを実感し

ました。

さらに眼科志望の私にとっては眼科の手術や外来見学をできたことも有り難かったです。菅野先生は外来で面白そうな症例を説明してくださって勉強になりましたし、中津病院以外での手術を見てみたかったのいい機会になりました。

この三週間を通して川俣病院の方には会津若松観光や温泉に連れて行っていただいたり、住居についても細やかな配慮をしていただいたりと大変お世話になりました。何よりも気さくに話しかけてくださった点に川俣の方の温かさを感じ、子供のように可愛がっていただけたことが本当に嬉しかったです。中々東北地方に来ることはないので、福島県に研修に来れてよかったです。後輩にも川俣病院を推奨していきます。短い間でしたがありがとうございました。



1月 加藤 裕

福島県を訪れるのは今回が初めてのことでした。それも真冬の1月の時期に研修を行うというのは川俣病院にとっても僕が初めてのことでした。東北の真冬の厳しさは僕が予想していたよりも遥かに厳しいものであり、大雪が降った朝に家から出られないでいる僕を救出してくださった鈴木さんにはとても感謝しています。研修の内容としては訪問診療、訪問看護が主でしたが、地域の方々は都会の人とはまた違った死生観を持っておられ、その点にとっても興味が湧きました。1ヶ月の研修期間中、果たしてどちらが良いのかを考えていましたが、結局答えは出ませんでした。何れにせよ、その地域でできる限りの患者のニーズに合わせ

た医療を行うというスタッフの方々の思いは少しは感じ取れたのかなと思います。

今回は短い間でしたが、指導して頂いた院長を始めとする先生方や看護師の方々、住まいや車、旅行など何かと良くして頂いた総務課の方、美味しい料理を作って頂いた栄養士の方々、痛めている膝を診て頂いたりハビリのの方々にはとても感謝しています。1ヶ月間本当にありがとうございました。今後、福島に寄るときは是非立ち寄らせていただこうと思いますので、そのときはよろしくお願ひします。

第70回済生会学会 済生会総会 開催

第70回済生会学会・平成29年度済生会総会が2月17日～2月18日の2日間、福岡国際会議場をメイン会場として、学会長の二日市病院の間野正衛院長の挨拶から始まり、秋篠宮殿下のご臨席の下、全国から約2600人が参加し、《地域とともに済生の途》をテーマに開催されました。

一般演題が561演題あり、盛大に開催されました。

総会は6名が参加し、永年勤続表彰を受けました。受賞者よりコメントを頂きましたのでご紹介いたします。



30年表彰

先日、第70回済生会学会・平成29年度済生会総会が福岡県で開催され、参加者2,600名、一般演題561演題と大規模な学会で改めて日本最大の社会福祉法人「済生会」に驚き、その一職員であることを誇りに思いました。また、明治天皇から「済生の道を広めるように」という勅語の精神を引き継いで保健・医療・福祉の充実・発展のために全国約6万人の済生会職員がそれぞれの職務において、熱心に取り組み挑戦しているのだと感じてきました。私も入職してから三十年が経ちいろいろな事があり、昨年からは介護老人保健施設に異動となり勤務していますが、毎日勉強の日々で

20年表彰

20年の月日は私にとってとても有意義な時間でした。仕事と家庭の両立は苦しい時もありました。一度仕事をやめようかと思ったことがありましたが、仕事を続けてくることが出来て病院の方々、家族に感謝させていただきます。本当にありがとうございました。日本が超高齢化となり、20年の間に当院の患者の患者様も高齢化しており、認知症の方も多くなってきて

介護老人保健施設めぐみ 看護師 三浦 千香子

病院勤務では分かり得られない経験もしています。この異動が無かったら、医療・福祉の密接な連携が全く分からず仕舞いだったに違いないと思っています。残りの退職までを地域に必要とされる医療と福祉を提供できるようもうひと働きしようと思っています。

そして最後に、この三十年間働いてきた中で、結婚・出産・育児をし、決して一人ではやってこれなかった事で、看護師を家族に持ち協力してくれていた夫・両親、寂しい思いをしてきた子供達に心から感謝したいと思います。

看護師長 岸波 優子

います。その中で病院の方向性は時代とともに変化してきました。今後看護師の役割として人が最期を迎えるにあたり、意思決定支援を行うことが非常に大事になってくると思います。このような事を踏まえ、患者様、病院に少しでも貢献できるように、健康に留意し仕事を続けていきたいと思っています。

准看護師 菅野 智津子

早いもので入職して20年の月日が経ちました。振り返ると思うように仕事ができず、ご迷惑をかけて悩んだこともありましたが、ここまで勤続できたのは支えてくださった職場の皆さんや家族のお陰と、心より感謝しています。

先日、福岡での学会。総会に参加させて頂きました。初めて訪れる土地ということもあり楽しみでした。

演目は、Wマコトさんのランチョンセミナーを受講し、笑いを通してのコミュニケーション術を学びました。とても有意義な内容で人と関わることで必要不可

欠であり、より良い人間関係を構築していく上で大切なツールだと改めて気づき、活かしていこうと思いました。

思い出としては、秋篠宮殿下を間近で拝見出来たこと（オーラがありました）。路線バス内での院長先生の笑える武勇伝。私の中でとても印象深く心に残りました。長崎の旅では運良くランタンフェスティバルに

行けたこと。その途中で思いがけない場所にも行き、舞上がりました。そしてメインの軍艦島は見るからに圧巻で感激でした。

最後に、激務の中快く参加させて頂き本当にありがとうございます。お陰様で心身共にリフレッシュできました。思い出を胸に、今後も微力ながら精進していこうと思います。



訪問看護ステーション 看護師 佐藤 香名子

2月17・18日に福岡国際会議場で済生会学会・総会に出席させて頂きました。10周年の時に参加させて頂いた時は済生会の規模の大きさに驚いたことを今でも鮮明に覚えています。学会当日は快晴に恵まれ、福岡の博多湾を望む高台に建つ、3会場で行われました。表彰式には秋篠宮殿下も出席され、厳かな雰囲気の中で20年を振り返り、とても感動的な表彰式でした。

エクスカーションでは、長崎観光で三菱重工長崎造船所資料館、軍艦島、中華街、酒井田柿右衛門窯に行き、特に世界文化遺産に登録されている軍艦島に上陸する事ができ、軍艦島での生活の工夫や歴史を知る事

が出来た事や、宿泊先から見た日本三大夜景でもある、長崎の夜景はとても綺麗で忘れられない思い出になりました。

川俣町も高齢化が加速していく中で、私が所属している訪問看護ステーションも在宅医療の需要が高まり、必要性が増していくと思います。これから、どんな看護が求められているのかを、学びながら頑張っていきたいと思います。

最後に、私が20年間仕事を続ける事が出来たのは、上司や先輩、同輩、後輩の皆さんに支えて頂いたからだと思っています。

20年間ありがとうございました。

10年表彰

10年前の私、看護助手という言葉すら知りませんでした。ど素人の私に優しく、又厳しく教えてくれた先輩に感謝しております。

学会という言葉に、私は縁が無いと思っておりました。とても貴重な経験をさせてもらい喜ばしく思っております。

10年という歳月に驚いております。笑い、涙、厳しいお叱りもありました。皆で反省文も書かされた事

もありました。確かに、患者に接し、言葉の難しさを知る事も分かり、人と人との繋がりと思っております。どんな仕事も皆同じですが、先輩に一言、言われた手がありました。

聞くは一時の恥じ、聞かぬは一生の恥。

この言葉は、私にとって宝です。

皆様、ありがとう。



看護助手 本田 マリヤ

記念すべき70回目の済生会学会・総会に出席させて頂き有り難うございました。

忙しい中、スタッフのみなさまのご協力により参加する事が出来ありがとうございました。

今回、改めて済生会の偉大さ、素晴らしさを実感することが出来ました。特に、「笑いの現場から学ぶ！医療安全向上委員会Wマコトさん達のセミナーでは、コミュニケーション力を身に付ける事で、チーム他職種間での連携強化、笑いの大切さを学び、とても勉強になり実践していきたいと思っております。貴重な体験をさせて頂き、有り難うございました。この先何年働ける

か分かりませんが、微力ではありますが、済生会川俣病院の為に全力で皆と協力し（コミュニケーション）頑張っていこうと思っております。

一緒に出席した皆様に感謝致します。



アナログからデジタルへの移行

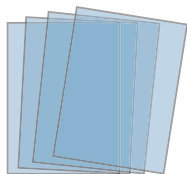


済生会川俣病院では平成28年の秋にX線写真をアナログからデジタルへ移行しました。アナログとデジタルの違いやメリットなどを紹介したいと思います。

アナログ画像とデジタル画像の違い

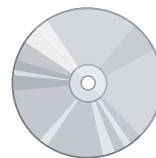
アナログ

- ◆ 画像をフィルムで見る。
- ◆ 現像した後に写真を見ることが出来る。
- ◆ 撮影した写真を保存しておく場所が必要になる。



デジタル

- ◆ 画像をモニターで見る
- ◆ その場で写真を確認することが出来る。
- ◆ 画像を電子的に保存する。



デジタルに移行したことによるメリット

アナログからデジタルに移行したことによって多くのメリットが生まれました。現像の際に必要な現像液などが不要になったため、環境汚染の心配が不要になりました。また、医師の読影の際にも、画像の濃度変更や拡大が簡単にできるようになりました。これによって患者さんへの説明もわかりやすくなったと思います。

患者さんに対して大きなメリットもできました。それは待ち時間を短縮することができるようになったことです。現像や前回の写真を探す時間を無くすことによって、診察までの時間を短縮できるようになりました。

最後に

今後も医療技術や機器は進歩していきます。それに伴い患者さんに提供できる医療の質も上がると思います。私どもも、より良い医療を提供できるように日々精進していきたいと思っております。

「“ありがとうの気持ち”をサンキューカードへ」

ワークライフバランス委員 鈴木 司

3月16日院内において、ワークライフバランス委員会主催のワークショップを開催しました。今回で3回目となるワークショップの議題は29年度より運用を始めた「サンキューカード」についてです。これは、日頃の“ありがとうの気持ち”を伝えるためサンキューカードを書いてみよう、という活動です。今回は活動内容を一度振り返ろうという目的で、全体の三分の一に当たる約40名の職員が参加しました。普段は他職種の職員同士の接点が少ないなか、活発な意見交換が行われました。

終了後のアンケートでは参加者の9割が満足と回答し、「サンキューカードを書いてみたい」「他のスタッフと話す機会が持てて楽しい時間だった」など予想以上の反響がありました。委員一同この活動に手応えを感じ、「サンキューカード」を今後も推進していきます。



新人紹介

- ① 職種 ② 出身市町村名 ③ 趣味・特技
④ 私だけのひそかな贅沢 ⑤ 自己アピール

渡邊 勇人



- ①理学療法士
②伊達市
③旅行
④休憩時間にコーヒーを飲むこと
⑤自然豊かな川俣地域で勤務できる喜びを感じながら仕事に従事させて頂いております。
今後のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

菅野 容子



- ①臨床工学技士
②相馬市
③卓球、ドライブ、温泉
④ハーゲンダッツやコンビニのスイーツを食べること
⑤わからないことや不安はありますが、みなさんからのご指導やアドバイスを頂きながら頑張っていきたいです。よろしくお願い致します。

若松公太郎



- ①臨床工学技士
②秋田県秋田市
③音楽を聴いたりドラムを叩くこと
④喫茶店に行くこと
⑤皆様から信頼されるようなスタッフになりたいと思っています。何卒よろしくお願い致します。

菅野 悦子



- ①視能訓練士
②新潟県新発田市
③アレンジメントフラワー・韓国史劇のDVD鑑賞
④ちょっと高いスイーツを娘に内緒で食べる
⑤経験を生かし、患者さまに貢献できればと思います。おばちゃんなので体調管理して仕事しないと！よろしくお願い致します。

渡辺 淳子



- ①看護師
②東京都狛江市
③ドライブ、昼寝、美術館や水族館に行くこと
④バイク付きの日帰り温泉でまったりすること
⑤長年病院勤務から離れていましたが、職員の方々に助けていただき、毎日楽しく勤務しています。ご迷惑をかける事が多いと思いますが、よろしくお願い致します。

吉村 里子



- ①看護師
②三春町
③ドライブ
④子供の所に行って、おいしい物を食べる
⑤家族は、夫と二人の子供がいます。年なので覚えが悪いですが、頑張りますのでよろしくお願い致します。

小野 裕美



- ①准看護師
②川俣町
③登山・スノボード、おしゃれなカフェを探すのが好き
④スターバックスで抹茶クリームフラペチーノをクリーム多めにする。
⑤社会人から看護学校へ通い直し、准看護師の資格を取得しました。ドキドキと不安が半分ずつですが、先輩方のご指導のもと精一杯頑張ります。宜しくお願い致します。

曳地 達哉



- ①社会福祉士
②伊達市梁川町
③居合道二段、日曜農家、献血
④風呂上がりのビール
⑤休日は専ら、農作業、田園、きゅうり、地元特産の「あんぼ柿」を作っています。

斎藤 智朗



- ①事務職
②伊達市月館町
③音楽鑑賞、スポーツ観戦
④チョコレートを食べながら、本物のビールを飲むこと
⑤学生時代はバスケットボール部に所属、社会人になってからもバスケットボールやバレーボールをプレーし、昨年の春からフェンシングを始めました。暖かくなったら、トレーニングを本格化し、数々の大会に参加したいと思っています。

嶋田 里菜



- ①事務職
②川俣町
③洋楽を聴くこと
④とり天を食べること、好きなアーティストのライブに行くこと
⑤分からないことだらけで不安はありますが、精一杯頑張りますので、これからよろしくお願い致します。

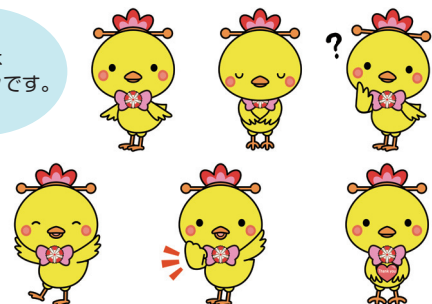
川俣地域ケアセンターマスコットキャラクター 「なでちゃん」誕生!!

「川俣シャモ」のひよこに、
頭には「小手姫のかんざし」、
首元には「なでしこの花」をモチーフとした
済生会シンボルマークをリボンに飾りました。

※小手姫 … 川俣町に養蚕や機織りを伝えたとされています。



スカーフは川俣シルクです。



外来診療予定表

平成30年4月1日より

		受付時間	月	火	水	木	金	土	
内科	午前	一診	8:45~11:30	佐々木俊教	数田 良宏	佐々木俊教	大庭 敬	大庭 敬	佐久間博史 大庭 敬 佐々木俊教 数田 良宏 (交代制)
		二診	8:45~11:30	山口 鶴子	君島 弘子	佐久間博史	君島 弘子	君島 弘子	山口 鶴子
		循環器	8:45~11:30		福島医大				済生会福島 山口 修 第2
		リウマチ	8:45~11:30						渡辺 浩志 第1(予約のみ)
		糖尿病 外来	8:45~11:30		済生会福島 本間美優樹 第1・3				
	午後	一診	13:00~16:00	大庭 敬	福島医大	数田 良宏	佐久間博史	君島 弘子	
	リウマチ	13:00~16:00	福島医大						
外科	午前	8:45~11:30		福島医大	芳賀 志郎		済生会福島 総合病院		
	午後	13:00~16:00		福島医大					
整形外科	午前	8:45~11:30	福島医大					福島医大	
	午後	13:00~16:00			福島医大				
泌尿科	午後	13:00~16:00	山中 直人 第2・4				山中 直人 診 察 14:30~		
眼科	午前	8:45~10:30				福島医大			
	午後	13:00~15:00			福島医大				
皮膚科	午後	13:00~16:00				高橋 博 診 察 14:00~			



済生会川俣病院

電話 024-566-2323 FAX 024-566-2325
ホームページ <http://www.kawamata.saiseikai.or.jp/>

済生会春日診療所	電話 024-566-2707	FAX 024-566-2707
なでしこ川俣	電話 024-566-2661	FAX 024-566-2665
川俣町地域包括支援センター	電話 024-538-2600	FAX 024-538-2601
済生会かわまた居宅介護支援事業所	電話 024-566-2657	FAX 024-566-2658
済生会川俣光風園	電話 024-566-3221	FAX 024-566-3331

4月1日より巡回バス運行が変わります。(完全予約制)

- 飯野・大久保・青木・秋山・小神・月舘・小島方面
- 飯舘・飯坂・大綱木・福沢・小綱木方面

ご自宅のそばまで
送迎致します。

予約・変更等、運行に関するお問い合わせは
済生会川俣病院 地域連携室 **024-566-2357**

